様式第4号

特则旧帝壮善子业敦宁診斯聿

				1寸/	別况里切	大食力:	#	沁处	沙凼官	Ē					(知的障	害·精	神の障害用)
	氏名	ふりがな						生年月	目	平成令和		年	月	日	性	別	男・女
	住所	〒 (-)					·						•		
1	障害の原因 なった傷病											ICD-	10⊐-⊦	~ ()
			主な精神障害		年	₣ 月				精	神障害	<u> </u>					
2			合併精神障害	合併精神障害		年 月		③ 合併症		身	体障害	Ē					
	傷病発生年	月	合併身体障害		组	E 月	,	<u> </u>)ため初め ⁻	初めて					= 入 内 2 7 2 = 1		
						参療録で確認 本人の申立	認		iの診断を	か診断を受 平成		令和	年	月	日		療録で確認 人の申立て
⑤	現病歴(陳	述者よ	/聴取)						陳	述者の日	名			患	者との続柄	Ī	
	ア 発病以来	を の 病状と	経過	イ 発病以来の治療歴 (病院:	名)	(治療	期間))	(入院·外	·来)		(病名)		(主な療	法)		(転帰)
				(ア)		年 月~		年月	入・	入·外 入·外 入·外		(13 11)		,_,			
				(イ) (ウ)		年 月~		年月年月	入・:								
イ脈	最近の通院治	療回数(他	院を含む)	(エ) 過去1年(診断	書作成日の前日	年 月~]から過去14		年 月)=A	3 入・:	外	0	過去2年	F(左記At	いら過去1年	F間)		
ウ fi	最近の療育等	の状況(他	地施設を含む)	過去1年(診断	書作成日の前日]から過去1年	年間))=A 回 過去2年(左記Aから過去1年間)				F間)]) 🔲				
これまでの発育・養育歴等 (出生から発育の状況や教育歴を陳述者よ り聴取の上、できるだけ詳しく記入してくだ さい。)				ア 発育・養育歴						等 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教育歴 に就学校 学校 他	普通学普通学普通学	級 .	特別支援等 特別支援等 特別支援等	学級・		支援学校) 支援学校)
			IJ	障害の 現在の病状又は状態像		年		月	左記0	日現 D状態に		、その程度	₹·症状·処	方薬等を見	具体的に訴	遠して	ください。
		・無)	1 知的障害 知能指数又は発達 テスト方式(指数(IQ · DQ ・重度 · 中度 · 年 ア失行 オ遂行機能障)・テスト 軽度 ・ 境界線 月 イ失認 ウ記 害 カ社会	・ 正常) 日)	工注意	意障害))) Judans					() - J(-)	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
			1 相互的な社会	関係の質的障害	(軽)	度・中層	变 .	・重度)								
	②数法赔	车崩,单件作	2 言語コミュニケ	ーションの障害	(軽	度・中間	变 .	・重度)								
		障害関連症状 有・無)		りで反復的な関心と行	動(軽	度・中原	变 .	・重度)								
現			4 その他(4 その他(
症	⑨意識障 (有 ·		6 不機嫌症 ・てんかん発作のタ・	7 その他((良好・	不良		んかん発作)) 回程度)									
	⑩精神症状 7 (有・無) 1:		7 恐怖 8 強迫														
		・無)	8 衝動性 9 破 13 徘徊・浮浪 16 排せつの問題	3多動 4 拒絶 衣 10 不潔 11 14 盗み 15 性的 (尿失禁・便失禁・ 拒食・異食・大食	放火・弄火 12 配脱行動 便こね ・ その他	2 器物破壊	7 他)									
	12性	格特徴															

		1 食事	全介助 · 半介助 ·	 一部介助 · 自立	5 入浴	全介助 · 半介助	」・ 一部介助・	自立		
		2 洗面	全介助 ・ 半介助 ・	一部介助 · 自立	6 危険物	全くわからない ・ 特定の物や場所はわかる				
現症		3 排泄	おむつ必要 ・ お	むつ不要	0 危険物	大体わかる				
	③日常生活能力の程度	3 排池	全介助 · 半介助 ·	一部介助 · 自立	7. 新职	夜眠らず騒ぐ ・	時々不眠			
症	(必ずご記入ください)	4 衣服	脱げない ・ 着れない	・ ボタン不能 ・ 自立	7 睡眠	寝ぼける ・ 問題なし				
		上記の内容を具体的に記載してください。								
	(4)要注意度	1 常に厳重な注意が必要 2 厳重な注意が必要 3 随時一応の注意が必要 4 ほとんど必要ない								
		選択した理由も必ず記入してください。								
⑤精神医学的総合判定 ※必ずご記入ください		□ 重度								
		□中度								
※知的・精神のみの 判断としてください		□ 軽度								
⑫備考		1 精神医学的総合判	定が「中度」以上とされ、就学先	が「普通学級」の児童の場合の学校で	での様子等					
		2 その他								

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄は記入する必要がありません。(無関係な欄は斜線により末梢してください。)

上記のとおり診断します。

月

病院または診療所の名称

診療担当科名

所在地 医師氏名

ツツ沙吹事相中中で作り棚(土相羊を区ごう)							ツツ44年十字本44(陸4年)、行列・1982年7月					
※※診断書提出時の状況欄(札幌市各区記入)							※※札幌市審査欄(障がい福祉課記入)					
請求	求者	受給者番号					判定年月日				備考	
受給	合者	氏名						1級	2級	非該当	保留	
~		氏名				州中公田						
	等	級	特別児童扶養		手当 級		判定結果					
	有期	期限	平成 ・ 令和		年	月	有期期限		•	無期	•	年後再判定
	手帳交付状況	有	身障手帳 級				判定内容等					
		19	交付年月日:	年	月	日						
		==	次回判定 :	年	月	日	知 ・ 知精	・精				
		7111	障害名									
		申請中										
支		-1-00-1-										
給対		有	療育手帳 A・	В•В	.—							
支給対象児童		無	判定年月日:	年	月	B						
童		申請中	次回判定 :	年	月	В						
		有	精神障害者保健福祉	手帳	級		1					
		無	交付年月日:	年	月	日						
		申請中	次回更新 :	年	月	日						
	精神障害者通院医療費助成 受診中・なし											

[◎]具体的な状態について記入しきれない場合は、裏面の記載又は別紙に記入してください。

記入上の注意

- 1 この診断書は、特別児童扶養手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
 - この診断書は障がいの状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定が遅くなることがありますので、詳しく記入してください。
- 2 ○・×で答えられる欄は、該当するものを○で囲んでください。また、記入する欄()は具体的に詳しく記入してください。なお、記入しきれない場合は、右下の欄または別紙に記入して添付してください。
- 3 ④の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく障がいの原因となった傷病について初めて医師の診断を受けた日を記入してください。前に他の医師が診断している場合は、障がい者本人またはその父母等の申立てによって記入してください。
- 4 ⑦から⑪までの欄には、それぞれの欄の症状または行動について該当するものを○で囲んでください。
- 5 知的障がいの場合は、知能指数または発達指数及び検査方式を⑦の欄に記入してください。
- なお、知能検査または発達検査結果については、その実施時点の年齢等により次の期間を有効とします。ただし、いずれの場合も、前回の特別児童扶養手当認定または再認定の際 に使用した検査結果は使用できませんので、それよりも新しい検査結果を記入してください。
- ア 検査実施時点で未就学である場合は、検査実施日から1年以内
- イ 検査実施時点で小学生である場合は、検査実施日から2年以内
- ウ 検査実施時点で中学生以上である場合は、検査実施日から3年以内
- 6 高次脳機能障がいによる失語障がいがある場合は、「言語機能の障害用」の診断書が必要です。
- 7 発達障がい関連症状がある場合は、各項目番号に○を付すとともにその程度(「軽度」、「中度」、「重度」)にも○を付してください。
- なお、「軽度」・「中度」・「重度」の状態は、おおよそ次のとおりです。

言語的及び非言語的社会コミュニケーション技能に著しい欠陥があり、援助があっても社会的機能障がいが明らかであったり、対人的相互反応

- ア 相互的な社会関係の質的障害
 - 「重度」= 非言語的社会的コミュニケーション技能に著しい障がいがあり、支援があっても社会的機能障がいが明らかであったり、対人的相互反応に著しい制限がみられる場合 「中度」= 非言語的社会的コミュニケーション技能に障がいがあり、適切な支援があっても社会的機能障がいがみられたり、対人的相互反応が困難である場合
- 「軽度」=上記以外のもの イ 言語コミュニケーションの障害
 - 「重度」=言語的コミュニケーション技能に著しい障がいがあり、支援があっても社会的機能障がいが明らかであったり、同年代と比較し著しく簡単なものに限られる場合
- 「中度」=言語的コミュニケーション技能に障がいがあり、適切な支援があっても同年代と比較し簡単なものに限られる場合
- 「軽度」=上記以外のもの
- ウ 限定した常同的で反復的な関心と行動
- 「重度」=行動の柔軟性のなさ、変化に対処することへの極度の困難さ、他の限局された反復的な行動等があり、あらゆる分野においての機能を著しく妨げている場合
- 「中度」=行動の柔軟性のなさ、変化に対処することへの難しさ、いろいろな活動相互での切り替えの困難さ等があり、機能を妨げている状況がみられる場合
- ※ ADHD等により「多動性」や「衝動性」がみられる場合は、「その他」に〇を付し、右欄に詳細をご記入ください。
- 8 精神症状で中度以上の症状がある場合は、具体的な症状、頻度、日常生活への影響、エピソード等について記載願います。
- 9 問題行動及び習癖で中度以上の症状等がある場合は、具体的な症状、頻度、日常生活への影響、エピソード等について記載願います。
- 10 日常生活能力の程度欄の状態は、おおよそ次のとおりです。
 - ア 「全介助」=知的・精神の障がいの影響で、自身で動作ができず、ほぼ全ての動作に介助を要している。
 - イ 「半介助」=知的・精神の障がいの影響で、自身で動作ができず、動作のおおよそ2分の1程度に介助を要している。
 - ウ 「一部介助」=知的・精神の障がいの影響で、動作の一部に介助を要している。(見守りや声掛けなど)
 - エ 「自立」=知的・精神の障がいの影響はなく、一人でできる。
- 11 ⑭の欄は、⑦から⑬までの欄に記載する注意を要する症状の有無、程度及び頻度に応じて該当するものを○で囲んでください。
- 12 ⑤の欄は、知的・精神の障がいの状態がどの程度かを判断する一助として、主治医のご意見をお聞きしておりますので、次の事項に留意の上、ご記載ください。
 - ア 「重度」=次ページに示した認定基準の「1級(重度)」の基準に合致する場合
 - イ 「中度」=次ページに示した認定基準の「2級(中度)」の基準に合致する場合
 - ウ 「軽度」=上記以外のもの(認定基準に該当しているとまではいえないもの)
- 13 ⑥の欄は、例えば、広汎性発達障がい等で、精神医学的総合判定を「中度」以上とした場合であって、就学先が「普通学級」の場合、学校における児童の状態や学校の支援体制などを記載してください。
- 14 診断医が「精神保健指定医」である場合は、氏名の上のその旨を記載してください。また、診断医が精神保健福祉センター、児童相談所または知的障がい者更生相談所の医師である場合は、「病院または診療所」の欄に、その精神保健福祉センター、児童相談所または知的障がい者更生相談所の名称を記入するだけで、「所在地」、「診療担当科目名」は記入する必要はありません。

特別児童扶養手当(知的・精神の障がい)の障がい程度認定基準及び認定要領

		.	-
		1級(重度)	2級(中度)
		身体の機能の障害又は長期にわたる安静を必要とする病状であって、日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度 ※ 病院内の生活でいえば、活動の範囲がおおむベッド周辺に限られ、家庭内の生	身体の機能の障害又は長期にわたる安静を必要とする病状であって、日常生活が著しい制限を受けるか、又は、日常生活に著しい制限を加えることを必要とする 程度
		活でいえば、活動の範囲が就床病室内に限られるもの	※ 病院内の生活でいえば、活動の範囲がおおむベッド周辺に限られ、家庭内の生活でいえば、活動の範囲が就床病室内に限られるもの
		・両眼の視力がそれぞれ0.03以下のもの	・両眼の視力がそれぞれ0.07以下のもの
;	※ 主な障がい程度	・両耳の聴力レベルが100デシベル以上のもの	・両耳の聴力レベルが90デシベル以上のもの
		・両下肢を足関節以上で欠くものなど	・一下肢を足関節以上で欠くものなど
	精神の障がい		
	統合失調症	統合失調症によるもにあっては、高度の残遺状態または高度の病状があるため 高度の人格変化、思考障がい、その他妄想・幻覚等の異常体験が著明なため、常時 の援助が必要なもの	統合失調症によるもにあっては、残遺状態または病状があるため人格変化、思考障がい、その他妄想・幻覚等の異常体験があるため、日常生活が著しい制限を受けるもの
	気分(感情)障がい	気分(感情)障がいによるものにあっては、高度の気分、意欲・行動の障がい及び 高度の思考障がいの病相期があり、かつ、これが持続したり、頻繁に繰り返したり するため、常時の援助が必要なもの	気分(感情)障がいによるものにあっては、気分、意欲・行動の障がい及び思考障がいの病相期があり、かつ、これが持続したり、頻繁に繰り返したりするため、日常生活が著しい制限を受けるもの
	病状性を含む 器質性精神障がい	高度の認知障がい、高度の人格変化、その他の高度の精神神経症状が著明なため、常時の援助が必要なもの	認知障がい、人格変化、その他の精神神経症状が著明なため、日常生活が著しい 制限を受けるもの
	てんかん	十分な治療にかかわらず、てんかん性発作を極めてひんぱんに繰り返すため、常時の援助が必要なもの	十分な治療にかかわらず、てんかん性発作をひんぱんに繰り返すため、日常生活が著しい制限を受けるもの
		知的障がいがあり、食事や身のまわりのことを行うのに全面的な援助が必要であって、かつ、会話による意思の疎通が不可能か著しく困難であるため、日常生活が困難で常時援助を必要とするもの	知的障がいがあり、食事や身のまわりのことなどの基本的な行為を行うのに援助が必要であって、かつ、会話による意思の疎通が簡単なものに限られるため、日常生活にあたって援助が必要なもの
	発達障がい	発達障がいがあり、社会性やコミュニケーション能力が欠如しており、かつ、著し <不適応な行動が見られるため、日常生活への適応が困難で常時援助を必要とす るもの	発達障がいがあり、社会性やコミュニケーション能力が乏しく、かつ、不適応な行動が見られるため、日常生活への適応にあたって援助が必要なもの

(記載欄)表面に記入しきれない場合は、下記の欄に記入するか、別紙に記ノ	.してください。	
例:①について 学校の授業中、立ち歩くことはほぼ毎日。兄弟げんかで興奮し、弟を叩く	とも過3~4回ある。	
テスの及来で、エフグへここははは毎日。ルカババの く来自の かとやく	C 0/23 4E/9 00	